

平成 28 年度自己評価シート(年度末評価)

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	高橋 光子	Ⓐ・定・通	Ⓑ・分
----	----	-----	--------	------	-------	-------	-----

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
1 授業を変える。							
オーセンティックな学び(深い学び), 聴き合う関係づくり, ジャンプ課題を設定した授業を実践し, 学びの質の高い授業づくりを推進する。	生徒による授業評価(2回/年の平均値)	89%	95%	93%	B	6月・11月末に実施した全科目・全項目の肯定的回答率の平均値は, 昨年度に比べ4%増加し, 目標を概ね達成した。	教務各教科
	教師による授業評価(2回/年の平均値)	81%	100%	92%	B	6月・11月末に実施した全科目・全項目の肯定的回答の平均値は, 昨年度に比べ3%増加し, 目標を概ね達成した。	教務各教科

- A: 目標を完全に達成した。 B: 目標を概ね達成した。
 C: 目標をあまり達成できなかった D: 目標をまったく達成できなかった。(以下同様)

【評価結果の分析】

- 生徒による授業評価アンケートにおいて, 6月実施の肯定的回答率 88.8%から, 11月実施 93.0%と 4.2%上昇した。また, 「何事も分かるまで努力する。」の項目に対する肯定的回答率は, 6月実施 88%から, 11月実施 96%と 8%上昇するなど, 2回目のアンケート結果において, すべての項目において肯定的回答率が上昇した。
- 教師による授業評価アンケート「授業において学びに向かう授業づくりを行った。」の項目では, 肯定的回答率は 100%であり, すべての教員が学びの質の高い授業づくりを推進することができた。
- 広島県高等学校学力調査生徒質問調査結果において, 昨年度調査結果に比べ, 85%の問いで肯定的回答率が上昇した。特に「自分から進んで勉強します。」の問いに対する肯定的回答率が 78.4%と, 昨年度(35.9%)から 42.5%上昇した。

【今後の改善方策】

- 課題発見・解決学習を取り入れた主体的な学びを促す授業づくりに向けて, さらに組織的・計画的に推進していく。
- 今後もさらに, 対話(教材, 仲間)を通して, 聴き合う関係づくりの構築及びジャンプ課題の設定による個々の学力向上に向けて取り組む。

2 保護者や地域から信頼を得る。

奉仕活動，学校行事等へ意欲的に参加し，周囲の人とのコミュニケーションを大切にする生徒を育成する。	服装違反の指導を受けていない生徒の割合(年間)	92%	95%	93%	B	服装違反の指導を受けていない生徒の割合は，前年度よりも若干向上した。	学年 生徒指導 進路指導
	参加生徒による達成感度(関係行事終了後のアンケート結果平均)	95%	97%	98%	A	地域と連携した体育祭及び文化祭等の学校行事で，高い達成感が得られ，目標値を達成した。	学年 生徒会

【評価結果の分析】

- 服装違反の指導を受けていない生徒の割合 93%と，昨年度(92%)からやや上昇した。また，服装違反2回以下の生徒の割合についても 94%と，昨年度(92%)からやや上昇した。
- 次の表に示すとおり，遅刻の状況，特別な指導状況においても，昨年度と比較して大幅に改善された。特に2年生では，遅刻0回の生徒の割合が 88%と昨年度(38%)から大幅に改善できた。自覚を持って行動できる生徒の割合が高くなっている。

[遅刻0回の生徒の割合]

	1 学年	2 学年	3 学年	全体
平成 27 年度	89%	38%	78%	68%
平成 28 年度	96%	88%	79%	86%

[特別な指導件数]

	26 年度	27 年度	28 年度
件数	47 件	1 件	1 件

- 休退学者数は2年連続ゼロであった。
- 地域の探究学習「さえき学」を推進し，地域の事業所で学ぶインターンシップ(2学年)12回実施，「津和野街道」歴史・文化探究学習(1学年)，「吉和の里地域開発プロジェクト」企画・運営(全学年)等を計画どおり実施し，地域を大切にする生徒及びコミュニケーションを大切にする生徒を育成することができた。
- 「花いっぱい運動」「宮島トライアスロン大会」「さいきハーモニーフェスタ」等，地域貢献活動・ボランティア活動に年間18回参加した。
- 国際交流では，ハワイの高校生が来校し，地域の方々と交えて交流を深めた。
- 「ヒューマンフェスタひろしま 2016 いじめ防止実践発表会」に県立高校の代表として，本校の日頃の取組を発表した。

【今後の改善方策】

- 地域活動・奉仕活動及び地域との連携行事等を通して，生徒の自己肯定感や自己有用感を高めるとともに，引き続き信頼される学校づくりに取り組む。
- 生徒指導の三つの機能を生かした日々の取組を継続し，日常的なマナーを身に付けるとともに，コミュニケーションを大切にし，他者と協働して課題を解決することができる生徒の指導を充実する。

3 教師の自律性・同僚性を育てる。							
積極的に授業観察を行い、学び合う同僚性のある教師集団を創造する。	教員の授業公開の回数(年2回以上)	100%	100%	100%	A	2回以上、授業公開した教員は、中間評価時点から更に増え、100%となった。	教務各学年
	異校種の授業観察の回数(年3回以上)	100%	100%	100%	A	異校種の授業観察等を3回実施した。	教務各学年

【評価結果の分析】

- 今年度、校内研究授業・研究協議会を20回実施した。その結果、教職員の授業力が向上し、生徒の主体的な学習活動が促進できた。
- 外部講師による研修会を2回、校内研修会を3回実施した。
- 「広島県高等学校学力調査」通過率60%以上の生徒の割合が大幅に増加し、生徒の基礎学力が向上した。

	1 学年			2 学年		
	国語	数学	外国語	国語	数学	外国語
平成27年度	48.0%	28.8%	24.0%	32.1%	7.1%	17.9%
平成28年度	61.5%	30.8%	34.6%	56.0%	28.0%	40.0%

- 進路指導では、組織的・計画的に指導した結果、第3学年進学希望生徒全員が第1希望に合格した。

[平成28年度進路状況：大学(同志社大学等5名)、短大(比治山大学短期大学部1名)、医療系専門学校(呉市医師会看護等3名)、工業系専門学校(広島工学院大学校等6名)、情報系専門学校(広島情報ビジネス等3名)、美容系・芸術系(広島県理容美容等2名)、就職(中本造林株式会社等6名)等]

【今後の改善方策】

- 引き続き、計画的な校内研修及び校内研究授業・協議会を行い、深い学びの授業づくりに組織的に取り組む。
- 教職員の日頃のコミュニケーションを密にし、課題解決に向けて取り組む、学び合う教職員チームを醸成していく。
- 日々のSHR、授業、部活動行事などあらゆる場面を利用して、生徒一人一人が自律した生活を送れるよう、教職員間の情報共有を密に行い、生徒の進路実現に向けて、きめの細かい指導を行う。

平成 28 年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	高橋 光子	金・定・通	専・分
----	----	-----	--------	------	-------	-------	-----

1 評価結果の分析

(1) 授業を変える。

- 生徒による授業評価アンケートにおいて、6月実施の肯定的回答率 88.8%→11月実施 93.0%と 4.2%上昇した。また、「何事も分かるまで努力する。」の項目に対する肯定的回答率は、6月実施 88%→11月実施 96%と 8%上昇するなど、2回目のアンケート結果において、すべての項目において肯定的回答率が上昇した。
- 教師による授業評価アンケート「授業において学びに向かう授業づくりを行った。」の項目では、肯定的回答率は 100%であり、すべての教員が学びの質の高い授業づくりを推進することができた。
- 広島県高等学校学力調査生徒質問調査結果において、昨年度調査結果に比べ、85%の問いで肯定的回答率が上昇した。特に「自分から進んで勉強します。」の問いに対する肯定的回答率が 78.4%と、昨年度(35.9%)から 42.5%上昇した。

(2) 保護者や地域から信頼を得る。

- 服装違反の指導を受けていない生徒の割合 93%と、昨年度(92%)からやや上昇した。また、服装違反 2 回以下の生徒の割合についても 94%と、昨年度(92%)からやや上昇した。
- 次の表に示すとおり、遅刻の状況、特別な指導状況においても、昨年度と比較して大幅に改善された。特に 2 年生では、遅刻 0 回の生徒の割合が 88%と昨年度(38%)から大幅に改善できた。自覚を持って行動できる生徒の割合が高くなっている。

[遅刻 0 回の生徒の割合]

	1 学年	2 学年	3 学年	全体
平成 27 年度	89%	38%	78%	68%
平成 28 年度	96%	88%	79%	86%

[特別な指導件数]

	26 年度	27 年度	28 年度
件数	47 件	1 件	1 件

- 休退学者数は 2 年連続ゼロであった。
- 地域の探究学習「さえき学」を推進し、地域の事業所で学ぶインターンシップ(2 学年)12 回実施、「津和野街道」歴史・文化探究学習(1 学年)、「吉和の里地域開発プロジェクト」企画・運営(全学年)等を計画どおり実施し、地域を大切にする生徒及びコミュニケーションを大切にする生徒を育成することができた。
- 「花いっぱい運動」「宮島トライアスロン大会」「さいきハーモニーフェスタ」等、地域貢献活動・ボランティア活動に年間 18 回参加した。
- 国際交流では、ハワイの高校生が来校し、地域の方々を交えて交流を深めた。
- 「ヒューマンフェスタひろしま 2016 いじめ防止実践発表会」に県立高校の代表として、本校の日頃の取組を発表した。

(3) 教師の自律性・同僚性を育てる。

- 今年度、校内研究授業・研究協議会を 20 回実施した。その結果、教職員の授業

力が向上し、生徒の主体的な学習活動が促進できた。

- 外部講師による研修会を2回、校内研修会を3回実施した。
- 「広島県高等学校学力調査」通過率60%以上の生徒の割合が大幅に増加し、生徒の基礎学力が向上した。

学年	1学年			2学年		
	国語	数学	外国語	国語	数学	外国語
平成27年度	48.0%	28.8%	24.0%	32.1%	7.1%	17.9%
平成28年度	61.5%	30.8%	34.6%	56.0%	28.0%	40.0%

- 進路指導では、組織的・計画的に指導した結果、第3学年進学希望生徒全員が第1希望に合格した。

[平成28年度進路状況：大学(同志社大学等5名)、短大(比治山大学短期大学部1名)、医療系専門学校(呉市医師会看護等3名)、工業系専門学校(広島工学院大学校等6名)、情報系専門学校(広島情報ビジネス等3名)、美容系・芸術系(広島県理容美容等2名)、就職(中本造林株式会社等6名)等]

2 今後の改善方策

- 課題発見・解決学習を取り入れた主体的な学びを促す授業づくりに向けて、さらに組織的・計画的に推進していく。
- 今後も引き続き、対話(教材、仲間)を通して、聴き合う関係づくりの構築及びジャンプ課題の設定による個々の学力向上に向けて取り組む。
- 地域活動・奉仕活動及び地域との連携行事等を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、引き続き信頼される学校づくりに取り組む。
- 生徒指導の三つの機能を生かした日々の取組を継続し、日常的なマナーを身に付けるとともに、コミュニケーションを大切にし、他者と協働して課題を解決することができる生徒の指導を充実する。
- より一層計画的な校内研修及び校内研究授業・協議会を行い、深い学びの授業づくりに組織的に取り組む。
- 教職員の日頃のコミュニケーションを密にし、課題解決に向けて取り組む、学び合う教職員チームを醸成していく。
- 日々のSHR、授業、部活動行事などあらゆる場面を利用して、生徒一人一人が自律した生活を送れるよう、教職員間の情報共有を密に行い、生徒の進路実現に向けて、きめの細かい指導を行う。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入)

- 課題発見・解決学習を取り入れた主体的な学びを促す授業づくりに向けて、さらに組織的・計画的に推進していく。
- 対話(教材、仲間)を通して、聴き合う関係づくりの構築及びジャンプ課題の設定による個々の学力向上に向けて取り組む。
- 地域活動・奉仕活動及び地域との連携行事等を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、引き続き信頼される学校づくりに取り組む。
- 生徒指導の三つの機能を生かした日々の取組を継続し、日常的なマナーを身に付けるとともに、コミュニケーションを大切にし、他者と協働して課題を解決することができる生徒の指導を充実する。
- 計画的な校内研修及び校内研究授業・協議会を行い、深い学びの授業づくりに組

織的に取り組む。

- 教職員の日頃のコミュニケーションを密にし、課題解決に向けて取り組む，学び合う教職員チームを醸成していく。
- 日々のSHR，授業，部活動行事などあらゆる場面を利用して，生徒一人一人が自律した生活を送れるよう，教職員間の情報共有を密に行い，生徒の進路実現に向けて，きめの細かい指導を行う。
- 本校に対する過去のイメージを払拭するため，学校の教育活動や成果を，さらに地域に発信していく。特に，地元の小学生や中学生に，本校の成果が活躍をしている場面を見てもらう機会を設定する。
- HPでも，実施済みの行事の紹介だけでなく，今後，どのような行事等を実施するのかを周知させていく視点に力点を置いていく。

